

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-52981

(43) 公開日 平成7年(1995)2月28日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 85/10 5/66		8111-3E 3 0 1 C 7445-3E		

審査請求 未請求 請求項の数12 O L (全10頁)

(21) 出願番号 特願平6-61548  
(22) 出願日 平成6年(1994)3月30日  
(31) 優先権主張番号 P 4 3 1 0 1 2 3 . 2  
(32) 優先日 1993年3月30日  
(33) 優先権主張国 ドイツ (DE)  
(31) 優先権主張番号 P 4 3 1 1 5 6 8 . 3  
(32) 優先日 1993年4月8日  
(33) 優先権主張国 ドイツ (DE)

(71) 出願人 590003205  
フォッケ・ウント・コンパニー (ゲーエム  
ペーハー・ウント・コンパニー)  
FOCKE & COMPANY (GMB  
H & COMPANY)  
ドイツ連邦共和国、デー - 2810 フェ  
ルデン、シーメンスシュトラッセ 10  
(72) 発明者 ハインツ・フォッケ  
ドイツ連邦共和国、デー - 27283 フ  
エルデン、モールシュトラッセ 64  
(74) 代理人 弁理士 鈴江 武彦

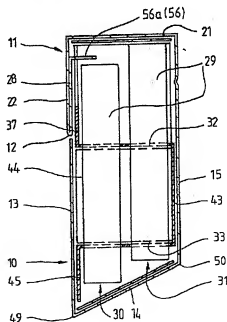
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 紙巻き煙草のような棒状物品用のバックおよび同バック製造用のプランク

(57) 【要約】

【目的】 配列されている物品、特に、紙巻き煙草の最初  
のものを容易に取り出すことができるバックを提供する  
こと。

【構成】 バックの底部壁が傾斜して配設され、底部壁に  
支持される紙巻き煙草は、高さが、互いに食い違うよう  
に配列される。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 前部壁の下端部（下部前縁49）が、後部壁の下端部（下部後縁50）と高さ食い違いように設けられる点に特徴を有する。紙巻き煙草その他の愛煙家向けの物品のような棒状物品(29)のためのパック、特に、パック部(10)と、前記パック部(10)の後部壁(15)に関節態様で連結された蓋(11)とを備え、

パック部(10)が、さらに、前部壁(13)と、両側壁(16,17)と、底部壁(14)と、そして、特に、一定数の物品(29)(列30)を、その他の数の物品(29)(列31)に対して、高さ食い違いように配列するために設けられる手段とを有するヒンジ蓋付きパック。

【請求項2】 下部前縁(49)を、下部後縁(50)に連結するための底部壁(14)が、前部壁(13)から、後部壁(15)に向かって、斜め上方に傾斜する点に特徴を有する請求項1記載のパック。

【請求項3】 下部前縁(49)を、下部後縁(50)に連結するための底部壁(14)が、ステップ状、特に、互いに高さ食い違った2つの底面(57,58)を備える階段態様に設計される点に特徴を有する請求項1または2記載のパック。

【請求項4】 好ましくは、両側壁（両側タブ19）の両下端部（両底端部61）が、下部前縁(49)および下部後縁(50)と、特に、下部前縁(49)と下部後縁(50)との間の大体中間の高さだけ食い違って設けられる点に特徴を有する請求項1-3のいずれか1記載のパック。

【請求項5】 パック部(10)内に、物品(29)が互いに距離を隔てて配列されるように、特に、各物品(29)の通路となる穴(34,35)の列を有する1つまたは複数の水平方向の支持壁(32,33)の形態をなし、物品(29)の間に延在する1つまたは複数の分離部材が設けられる点に特徴を有する。紙巻き煙草その他の愛煙家向けの物品のような棒状物品(29)のためのパック、特に、パック部(10)と、前記パック部(10)の後部壁(15)に関節態様で連結された蓋(11)とを備え、

パック部(10)が、さらに、前部壁(13)と、両側壁(16,17)と、底部壁(14)とを有するヒンジ蓋付きパック。

【請求項6】 2つの水平方向の支持壁(32,33)が、パック部(10)の後部壁(15)または前部壁(13)と接する直立中間部片(43)によって、互いに連結されており、両支持壁(32,33)が、前記中間部片(43)とともに、支持挿入部材(40)を形成し、好ましくは、共通のブラंकから折り曲げられる点に特徴を有する請求項5記載のパック。

【請求項7】 パック部(10)内に設けられるカラー(36)が、支持挿入部材(40)のブラंकを有する一続きの部材に作られ、そして、特に、上部支持壁(32)の一端（折り曲げ線48）と隣り合う点に特徴を有する請求項6記載のパック。

【請求項8】 物品(29)の少なくとも2つ、特に、物品の後列または前列(30,31)に、負荷を加えるか、また

は押圧する押圧部材が内側の蓋(11)内に設けられる点に特徴を有する。紙巻き煙草その他の愛煙家向けの物品のような棒状物品(29)のためのパック、特に、パック部(10)と、前記パック部(10)の後部壁(15)に関節態様で連結された蓋(11)とを備え、

パック部(10)が、さらに、前部壁(13)と、両側壁(16,17)と、底部壁(14)とを有するヒンジ蓋付きパック。

【請求項9】 押圧部材が、内側に折り曲げられた内部タブ(28)が、蓋の前部壁(22)に隣接するように、蓋(11)を形成するブラंक部と連結され、

押圧部材が、内部タブ(28)の一部として、または内部タブを免脱原点とするために設計される点に特徴を有する請求項8記載のパック。

【請求項10】 底部角タブ(53)の両自由端部が、傾斜した底部壁(14)を形成するために、展開ブラंकに関し傾斜して作られる点、および、特に、両側壁（側タブ18,19）の両下端部（底端部51,52）が、両側壁部(54)と両端部(51,52)とが互いに直交するように、好ましくは、傾斜して作られる点に特徴を有する。

前部壁(13)、底部壁(14)、後部壁(15)、両側壁(16,17)、好ましくは、蓋の後部壁(20)、蓋の上部壁(21)、蓋の上部壁(22)、および蓋の両側タブ(26,27)を形成するための折り曲げ線によって区画される区域を備え、両側壁（側タブ18または19）と、組み立て完了後のパック中では、底部壁(14)と同じ1つの面内にある両底部角タブ(53)とが互いに隣接する。特に、請求項1-9のいずれか1記載のパックを形成するためのブラंक。

【請求項11】 互いに高さ食い違い2つの面を形成するために、底部壁(14)が、2つの平行な折り曲げ線(6)のによって、後部底面(58)、中間部片(59)、および前部底面(57)の3つに分割される点に特徴を有する。前部壁(13)、底部壁(14)、後部壁(15)、両側壁(16,17)、好ましくは、蓋の後部壁(20)、蓋の上部壁(21)、蓋の上部壁(22)、および蓋の両側タブ(26,27)を形成するための折り曲げ線によって区画される区域を備え、

両側壁（側タブ18または19）と、組み立て完了後のパック中では、底部壁(14)と同じ1つの面内にある両底部角タブ(53)とが互いに隣接する。特に、請求項1-9のいずれか1記載のパックを形成するためのブラंक。

【請求項12】 それぞれが、物品(29)の通路となる穴(34,35,79)を備える1つまたは複数の支持壁を有し、1つの別の支持壁(76)が、その部分区域にのみ穴(79)を備え、その外方自由端区域(80)には、物品(29)のための通路となる適当な穴を備えていない点に特徴を有する。特に、請求項5-7のいずれか1記載のパックに使用する支持挿入部材(40)を形成するためのブラंक。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、紙巻き煙草その他の

愛煙家向け物品のような棒状物用のバック、特に、バック部と、バック部の後部壁に開閉態様で連結する蓋を備え、バック部はさらに、前部壁、側壁、底部壁、そして特に、物品の何本かを、他の物品に対して高さの食い違った位置に配列する手段を備えるヒンジ蓋付きバックに関する。

【0002】

【従来の技術】ヒンジ蓋付きバックは、世界に普及している紙巻き煙草用のバックの形態である。これらにおいては、複数列をなして配列された紙巻き煙草のグループが、錫箔または紙などで作られる内部包装体によって囲まれる。ヒンジ蓋付きバックは、薄いカードボードから作られ、バック部と蓋とを有する。バック部には、通常、一部の区域とともにバック部外に突出するカラーが配設されており、カラーは、バック開閉時には蓋によって囲まれる。物品のうちの最初のものを、より容易に取り出すためには、隣接列同士が、高さが互いに食い違うように配列されることが可能である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】この発明の主題は、物品の高さが食い違う新規なバックを提案することである。

【0004】

【課題を解決するための手段】この目的を達成するため、この発明のバックは、前部壁の下端部（下部前縁）が、後部壁の下端部（下部後縁）に対して食い違っており、後部壁の下端部（下部後縁）に対して食い違っており、したがって、それぞれが互いに隣り合う底部壁の区域もまた、下部前縁の区域内で底部壁上に直立する物品を、下部後縁近傍にある物品に対して、高さが食い違うように配列するために、同様に食い違うように設けられる。その結果、蓋を開いたときに見える物品の端部もまた、もちろん高さにおいて、互いに、特定していえば、特に、その前列が後列に対して、食い違っている。列の数をもっと多数に亘る場合には、列の数に対応して、食い違いに基づくもっと多くの段差を生じるであろう。

【0005】

【作用】底部壁自体は、多様に設計することができる。1つの有利な解決案は、下部前縁を下部後縁と連結する底部壁が、前部から後部へ斜めに向くようにすることである。このものは、材料の節約にもなり、製造も容易である。

【0006】この発明の他の特徴によれば、もし、物品の間に延在するバック部分離部材中に、これらが、互いに一定距離を隔てて位置するように、特に、1つまたはそれ以上の、（各内部部の）それぞれの物品の通路のための凹部の列を備える。横断方向を向く支持壁が設けられているならば特に有利である。互いに対し、高さが食い違う物品の列は、列の間に距離があって、より簡単に取り出すことができるので、特に魅力的な効果を出す

る。さらに、物品同士が、例えば摩擦力などによって互いに接触する結果として発生する影響を回避することができる。

【0007】物品の列が、それぞれ高さを異にするように配置される場合は、物品を蓋または蓋の上部壁に接触しないように固定すればさらに有利である。この発明の特徴によれば、この目的で、少なくとも物品の一部、特に、最前列または最後列の物品に負荷を課しまたは抑圧を加える支持部材が、蓋の内側に設けられる。

【0008】この発明は、さらに、バック、特に、この発明の上記バックを形成するブランクにも関連する。ブランクの特徴およびこの発明に不可欠の特徴は、請求項および発明の詳細な説明に基づく。

【0009】発明の特定の実施例は、添付図面を参照し、以下に説明する。

【0010】

【実施例】新規なブランクの好ましい模範実施例を図1に示す。バック部10と蓋11を有する従来型のヒンジ蓋付きバックの基本形が、その出発点である。前部壁13、底部壁14および後部壁15を形成する折り曲げ線12によって諸区域が区画される。ヒンジ蓋付きバックの側壁16, 17は、それぞれ、互いに重なり、接着によって連結される2つの側タブ18と2つの側タブ19からなっている。後部壁15に隣接する側タブ18は、内側にくる。

【0011】下記の順でバック部の後部壁15と連続する蓋の後部壁20、蓋の上部壁21および蓋の前部壁22を有する蓋11も同様な構造をしている。開閉中に蓋11の回転運動を行わせる関節部23の折り曲げ線23は、蓋の後部壁20とバック部の後部壁15の間に形成される。蓋の側壁24, 25は、側壁16, 17と似た態様で設計される蓋の側タブ26, 27からなる。蓋の前部壁22の自由端部には、これに内部タブ28が付設されており、完成後のバックにおいては、この内部タブ28が、蓋の前部壁22の内側に接触する。この様子は図3、8、11、14を参照されたい。

【0012】ヒンジ蓋付きバックは、幅広い棒状物品29のグループを収容する機能を実行する。これらの物品は、従来の紙巻き煙草の段々であってもよく、また、その他の紙巻き煙草様の物品であってもよい。模範実施例において、バック10は、物品29が、ヒンジ蓋付きバック内で、2つの列31, 32（1つの列につき5本の物品）をなして直立して配列されるような設計とする。複数本の物品29は、互いに距離を置いて配列される。列30, 31の間の距離もこれと同一である。もっとも、列と列の間の距離は、他の大きさであってもよい。

【0013】物品29の相対位置を維持するために、各物品29は、それぞれ、一定の距離間隔で支持される。模範実施例では、2つの支持壁32, 33が、バック部10内に配設される。支持壁32, 33は、物品29の長手方向に、一定の距離を隔てて配置されており、同様に、底部壁14および蓋11からも隔たっている。支持壁32, 33は、物品29

の長手方向とはば、直交する方向に延在する。

【0014】各支持壁32,33は、物品29の本数と一致する数の穴34,35を備える。これらの穴34,35は、物品29の相対位置、すなわち、列30,31と一致する位置に設けられる。2つの支持壁32,33の穴34,35は、それぞれの軸線を共有するように、すなわち、上下の位置が同じ軸線上に来るように配置されているので、各物品29は、一方および他方の支持壁32,33の穴34,35を貫通する。

【0015】穴34,35は、それらの形状において、物品29の外形と一致する。現実実施例の場合、円筒状をなす物品29の外形と一致するように、円形の穴34,35が、支持壁32,33内に打ち抜かれる。穴34,35が作られる際は、対応する円形の打ち抜き残滓は完全に除去される。

【0016】現行の模範実施例では、支持壁32,33は、互いに連結されて一続きのブランク（図4参照）を形成する。さらにまた、同じブランクから、カラー36が形成される。ヒンジ蓋付きバックにおいては、このタイプのカラーは、バック部10内への挿入部材として普通のものである。カラー36は、カラー前部壁37およびカラー側タブ38,39からなる。カラー前部壁37は、バック部の前部壁13の内側と接触する。カラー側タブ38,39は、両側壁16,17の区域において、内側に突出する。カラー36の一部の区域は、バック10の外に突出して、バック閉鎖位置においては、蓋11（図3、8,11,14参照）によって囲まれる。図4のブランクは、バック部10内への支持挿入部材40を形成するために特別に設計される。この支持挿入部材40用のブランクの幅は、カラー36に必要な幅に等しい。このことは、結果として、支持壁32,33の区域内に、それぞれの側壁の両側に折り曲げタブ41,42が存在することになる。支持壁32,33間の距離は、前記と同様の横方向折り曲げタブ44を備える支持挿入部材40の中間部片43の大きさによって決まる。

【0017】さらにまた、現模範実施例においては、下部支持壁33の自由な側に隣り合うスベークータブ45が、カラー36と向かい合う側の中間区域に形成される。このスベークータブ45の外形は、カラーの前部壁37の区域に形成される凹部46の外形と一致する。これら両者の外形が完全に一致するので、薄いカードボードなどからなる連続材料ウェブに打ち抜きを施すことによって、支持挿入部材40用のブランクを無駄なく製造することが可能である。

【0018】カラーの両側タブ38,39、および折り曲げタブ41,42,44は、打ち抜き切断部47によって互いに分離される。

【0019】支持挿入部材40は、カラー36が、直立脚として前部壁13と向かい合うように、三次元形状をなしている。上部支持壁32は、直角に折れ曲がることによって、カラー36と隣接する。上部支持壁32の後に、直立折り曲げ部として、バック部10の後部壁15と接する長方形の中間部片43が続く。下部支持壁33は、直角に折れ曲がるこ

とによって、中間部片43の下端と隣接する。下向きに折れ曲がったスベークータブ45は、中間部片43と向き合う位置を占める。支持挿入部材40の大きさは、スベークータブ45が、底部壁140の底面上で立ち上がるような大きさに選択される。支持挿入部材40の諸部分、特に、カラー36および/または中間部片43は、バックのこれらと向き合う部分と接合するように連結することができる。支持挿入部材40の諸区域は、平行な折り曲げ線48によって互いに区画される。

【0020】バック部10は、特別な態様で設計される。底部壁14は、従来の立方体バックに備わる底部壁の位置に対して斜めの方向を向く。底部壁14は、前部壁13の下端部49から、後部壁15の下端部50まで斜め上方に延在する。この傾斜角度は約25度である。前記の傾斜構造によって、物品29の前列30は、後列31と較べて多少低い位置を取る結果になる。これによって、バックが開いた状態では、視覚上魅力的なパターンがもたらされる。特に、物品29の抜き取りが、これらの階段状の配列によって簡単になる。

【0021】傾斜した底部壁14を形成するために、バック部10用のブランクが、特別な態様で設計される。側タブ19は、傾斜した両底部壁51を備える変形に設計される。ここで、「両底部壁」と表現するのは、完成時のバックにおいては、これら両端部が、底部壁14と接触するからである。

【0022】同様に、両側タブ18の両下端部52も、特定のいえば両底部壁51に平行に斜めを向いている。この場合も傾斜角度の大きさは約25度である。

【0023】底部壁14に隣接し、側タブ18とその下方で隣り合う両底部角タブ53は、特別な態様で設計される。これらの外端部54は、側タブ18の外端部55と連続して延在するが、前記外端部55に対しては、少なくとも、先に述べた25度という角度値を持つ傾斜角αだけ（図内）に傾斜している。現模範実施例では、外端部54が、下端部52に直角に延在する。

【0024】蓋11の区域には特徴ある構造が備わっている。図1において、内部タブ28と平行なタブ56aが、内部タブ28と隣接して押圧デバイス56を形成する。その機能は、図3にもっと詳細に示されている。押圧デバイス56は、内部タブ28に直角に折り曲げられ、物品29がその長手方向に移動しないように、物品29の前列30を拘束する。底部壁14が傾斜しているために、後列31は、上部で蓋11に接する。

【0025】押圧デバイス56は、カラー36の凹部46より幅が狭く作られる。「狭い」とは、蓋の側壁24から蓋の側壁25の向きに「狭い」ことを意味する。カラー前部壁37との接触は、これによって遅けられる。

【0026】図8、7、8は、これまで説明した実施例の変形を示す。これらの変形実施例は、一方において底部壁140の異なる設計に関し、他方また、押圧デバイス

の区域56における蓋11の進歩に関する。図6、7、8において、できる限り、前と同一の参照番号を使用する。

【0027】図6によれば、底部壁14は、前部壁13と隣接する前部底面57、後部壁15と隣接する後部底面58および前記2つの面57,58を連結する中間片59の3つの部分で作られる。これら3つの面は、折り曲げ線60で互いに区画される。両側タブ19を区画する底端部61は、外端部55または図6に示すブラנקの長手方向に対してほぼ直角に延在する。したがって、この実施例においては、傾斜した底部は存在しないが、その代わりに階段態様でステップの付いた底部壁14がある。これについては図8を参照されたい。図3にも明示されるように、現実施例でも、物品29の前列30が後列31に対して高さが食い違っている。図8においても前列30が低く配列される。

【0028】階段状の底部壁14を折り曲げるために、側タブ18と下方で隣接し、最大の場合でも高さ後部底面58の幅bと一致する幅bを有する図6の底部角タブ62が形成されている。底部角タブ62は、ほぼ長方形をなしており、組み立てられたバック内では、図8に見られるように、後部底面58と接触する。

【0029】側タブ19の長さや形状についての特色がこの場合も具現される。両側タブ19は、図6の下にある前部底面57と前部壁13の間の折り曲げ線63と、完成時のバックの蓋に向かって、食い違て設けられている。折り曲げ線63の底端部61に対する高さの食い違い量hは、中間片59の幅(高さH)の半分、すなわち、 $h = 1/2H$ である。図8の完成時のバックにおいては、底端部61は、上記の関係によって後部底面58よりも下方に突出している。下方に突出する底端部61は、同時にまた、完全に前部底面57にまでは達していない。この点は、2個のバックが連結して図示しない1個の小複合包装体を形成する場合に、特に有利である。前記2個のバックは、一方のバックの後部底面58が、他方のバックの前部底面57と接するように互いに向かい合って、それぞれの階段状の底部壁14で噛み合う。後部底面58を越えて突出する一方のバックの側タブ19の特定部分が、次いで、前部底面57の区域において、側タブ19によりカバーされない他方のバックの区域をカバーする。

【0030】図1-3に示す実施例と、さらに別の相違点は、押圧デバイス56の区域に存在する。図6、7、8において、支持タブ64が、支持部材としてタブ56aに隣接している。この支持タブ64は、タブ56aに対して横に折り曲げられるので、内部タブ28と平行な面内に延在する。支持タブ64は、蓋の上部壁21と向き合ったり、または、蓋の上部壁21と接する蓋の角タブ65と向き合ったりして支持される。支持タブ64の形状と大きさは、タブ56aのそれらに大体一致している。支持タブ64の幅、すなわち、タブ56aと蓋の上部壁21との間の距離は、ほぼ、2つの列30,31の高さの食い違い量と一致する。支持タブ64

は、前列の物品29C、これを長手方向に移動しようとする力が作用しても、これに対抗して物品29を固定するよう働く。

【0031】折り曲げ線66が、タブ56aと、支持タブ64または内部タブ28の間に設けられる。これは、図1に見られるように、断続する打ち抜き線67で代替してもよい。

【0032】図9、10、11は、図1に変形を加えたブラנקからなるバックを開示している。前記の變形は、蓋10の区域またはこれと隣り合う蓋の前部壁22の区域に施されている。図1-3のものとは共通する部分については、同一の参照番号を付与してある。図9において、内部タブ68が、蓋の前部壁22の上部でこれに隣接している。この内部タブ68は、図1の内部タブ28よりも長く、図9に示すように、殆ど蓋の上部壁21まで及んでいる。タブの延長部69は、内部タブ68に隣り合い、これと同じ幅を有する。組み立て完了時のバックにおいては、タブの延長部69が、蓋の上部壁21に平行しており、したがって、内部タブ68に対して角部をなしている。複数のヒール部71が、内部タブ68とタブ延長部69の間の角部70内に、側壁から側壁に向かって互いに隣接して設けられる。これらのヒール部71は、図3および図8のタブ56aと同様の態様で、押圧デバイス56の機能を果たす。これらヒール部は、それぞれ、互いに平行する2つの切断部で形成され、角部70とは逆の向きに折り曲げることによって、角部70の外へ折り曲げられる。2つの脚部73,74が、こうして、各ヒール部71から得られる。第1の脚部73は、内部タブ68から出発し、内部タブ68に対して傾斜する。第2の脚部74は、タブ延長部69から出発し、タブ延長部69および第1の脚部73に対して傾斜する。図10によれば、もし、列30に5本の物品が存在する場合には、これらとともに、4つのヒール部71が設けられる。前記4つのヒール部71は、それぞれが互い違いに配置されており、それぞれが、押圧デバイスとして、隣り合う2つの物品に作用を及ぼす。この互い違いの配置によって、ヒール部71は、必然的に、側壁から内側へ食い違っている。カラ-36Kによって妨害される可能性は、こうして回避される。反対に、ヒール部71は、カラ-の凹部46の区域に位置する。脚部73の長さは、前列30にある物品の径の約1/2の位置まで伸びている。脚部74の長さは、2つの列30,31の高さの食い違い量と大体一致する。

【0033】図12、13、14は、この発明のバックの、さらに別の実施例を開示する。バックすなわち蓋11を有するバック10は、ここでは、従来通りの構造、すなわち、傾斜底面(図3参照)または階段状底面(図8参照)を伴わない立方体状の構造をしている。しかしながら、この場合においても、バック内にある何本かの物品を、他の何本かの物品に対して、それらの高さが食い違いうように配列する手段が備わっている。この目的で、支

支持挿入部材40が特別に設計される。カラー前部壁37、支持壁32、中間部片43および支持壁33を備える中間区域は、図4-図12に開示される実施例に相当する。中間部片43は、支持壁32,33が、バック内でもっと短い距離を隔てて向かい合うように、多少短い、個々のタブ38,39,41,42,44の代わりに、図12に見られるように、カラーの前部壁37の両側に、カラーの両側タブ75が設けられる。このカラーの両側タブ75は、それぞれ、カラーの前部壁37と接する線上を横方向に回転する関節態様をなしており、同時にまた、下方に向かって、すなわち、中間部片43に向かって突出し、上部支持壁32の約1/2の位置まで達している。

【0034】ここでは、下部支持壁33に隣接する別の支持壁76が、特徴的に設けられている。この支持壁76は、支持壁32,33のそれぞれよりも多少長いので、バック内では水平には収まらず、傾斜して配設される(図14参照)。支持壁76の下端部77は、バック底面(底部壁14)で、後部の下端部50に近接して設けられる。下端部50と平行であり、同時に、支持壁33と最下端の支持壁76との間で折り曲げ線を形成する上端部78が、後部の下端部50とは、高さが食い違うように前部壁13と接触する。

【0035】前記の支持壁76は、一列の穴79のみが設けられる。これらは、楕円形をなしているので、前列30にある物品が、実質的に遊びを生じないように、これらの穴79に支持される。組み立て完了バック内で後列31の区域に位置する支持壁76の区域80には、穴が設けられない。後列31の物品は、この区域80上で支持されるか、この区域と接する。この点によって、この区域80上に支持される後列31の物品が、穴79を貫通して突出する前列30の物品に対して、自動的に、その高さが食い違うように配列される結果となる。この区域80は、バック内への挿入が容易なように、支持壁76の他の部分に較べてやや幅狭に作られる。

【0036】図示を省略した実施例によれば、傾斜支持壁76は、別体の中間支持壁を備えていないカラーブラントの一部である。

【0037】図13、14には、下位列の物品を押圧する押圧部材は設けられていない。しかしながら、これは、前に説明した実施例には存在する。同様にまた、

物品の高さが食い違うように配列した実施例は、どのようなものであっても前記の押圧部材を備える実施例と結合することができる。

【0038】

【発明の効果】この発明の、物品の高さが食い違う新規なバックによって、配列されている物品の最初のを、より容易に取り出すことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】ヒンジ蓋付きバック用の展開ブラントを示す。

【図2】完成した閉鎖時のバックの正面図である。

【図3】図2のバックのIII-III面に沿う垂直断面図。

【図4】支持挿入部材用の展開ブラントを示す。

【図5】図2のバックのV-V面に沿う水平断面図。

【図6】ヒンジ蓋付きバックの他の実施例用の展開ブラントを示す。

【図7】図6のブラントに対応する、完成した閉鎖時のバックの正面図である。

【図8】図7のバックのVI-VI面に沿う垂直断面図。

【図9】ヒンジ蓋付きバックのさらに別の実施例用の展開ブラントを示す。

【図10】図9のブラントに対応する、完成した閉鎖時のバックの正面図である。

【図11】図10のバックのVII-VII面に沿う垂直断面図。

【図12】支持挿入部材の他の実施例用の展開ブラントを示す。

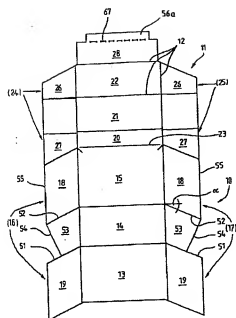
【図13】図12の支持挿入部材を備える完成した閉鎖時のバックの正面図である。

【図14】図13のバックのVIII-VIII面に沿う垂直断面図。

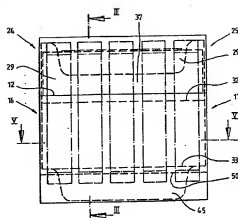
【符号の説明】

10…バック部、11…蓋、13…前部壁、14…底部壁、15…後部壁、16、17…側壁、26、27…蓋の側タブ、29…物品、30…前列、31…後列、32、33…支持壁、34、35…穴、36…カラー、40…支持挿入部材、43…中間部片、48…折り曲げ線、49…下部前部壁、50…下部後部壁、57、58…底面、81…底端部。

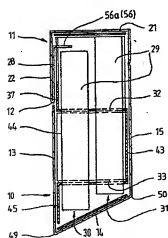
【図1】



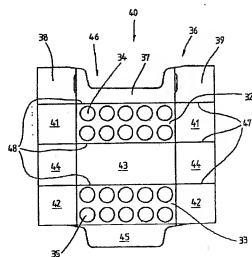
【図2】



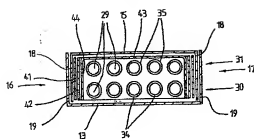
【図3】



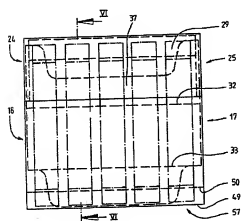
【図4】



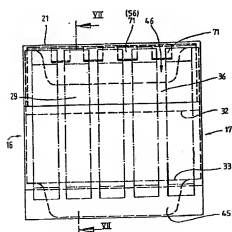
【図5】



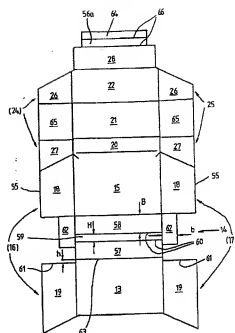
【図7】



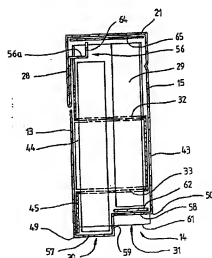
【図10】



【図6】



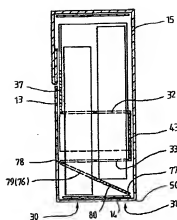
【図8】







【図14】



フロントページの続き

(72)発明者 トーマス・ヘフカー  
ドイツ連邦共和国、デー - 27299 エ  
テルゼン、パッシュケベルクシュトラッセ